

令和2年度 燕市一般会計(普通会計)決算の概要

- 令和2年度の一般会計(普通会計)決算は、歳入が前年度比143億1,968万7千円増の495億7,104万9千円、歳出が139億8,618万8千円増の481億3,904万9千円で、形式収支は14億3,200万円となり、形式収支から翌年度の繰越財源を控除した実質収支(繰越金)は前年度比3億7,075万8千円増の13億6,994万7千円となりました。
- 実質収支の増減を表す単年度収支から財政調整基金の積立・取崩を加減した実質単年度収支は、前年度比2億8,007万8千円増の4億5,873万5千円となりました。
- 財政調整基金残高は、前年度末から8,797万7千円増の25億5,258万6千円となっています。

区 分	令和2年度	令和元年度	比 較	主な費目の増減額
歳 入	495億7,104万9千円	352億5,136万2千円	143億1,968万7千円	【歳入】 市 税 ▲ 2億 914万3千円 国庫支出金 + 95億6,404万1千円 財産収入 + 5億8,490万3千円 寄 附 金 + 7億3,191万8千円 繰 入 金 + 22億3,009万円 【歳出】 人 件 費 + 10億6,771万6千円 投資的経費 + 9億 469万2千円 補 助 費 等 + 102億7,357万2千円 積 立 金 + 25億5,586万2千円 繰 出 金 ▲ 12億6,107万7千円
歳 出	481億3,904万9千円	341億5,286万1千円	139億8,618万8千円	
形式収支	14億3,200万円	10億9,850万1千円	3億3,349万9千円	
翌年度繰越財源	6,205万3千円	9,931万2千円	▲ 3,725万9千円	
実質収支(繰越金)	13億6,994万7千円	9億9,918万9千円	3億7,075万8千円	
単年度収支	3億7,075万8千円	4億3,462万3千円	▲6,386万5千円	
積立金+繰上償還	25億7,395万2千円	4億7,356万1千円	21億 39万1千円	
積立金取崩額	24億8,597万5千円	7億2,952万7千円	17億5,644万8千円	
実質単年度収支	4億5,873万5千円	1億7,865万7千円	2億8,007万8千円	
財政調整基金残高	25億5,258万6千円	24億6,460万9千円	8,797万7千円	

【令和2年度決算のポイント】

- 令和2年度決算は、新型コロナウイルス感染症の市内社会経済への影響に対応するため、市独自の感染症対策フェニックス11+(プラス)や特別定額給付金事業等を実施したことから、合併後最大規模となりましたが、感染症対策に関連する決算額を除くと3番目の決算規模となります。
※感染症対策に係る歳出決算額:約97.8億円(フェニックス11+:約9.7億円、国の感染症対策事業(国100%補助):約81.4億円、その他の感染症対策:約6.6億円)
- 実質収支(繰越金)の増加は、感染症の影響による事業等の中止・縮小等に伴い支出が抑えられたことに加え、その代替事業や感染症対策を実施するにあたり、一般財源による執行を抑えつつ、国庫補助金やふるさと燕応援寄附金等の特定財源を有効に活用したことも主要な要因と考えられます。

【令和3年度以降の財政動向】

- 令和3年度は、依然として感染症が拡大しており、さらなる感染症対策に必要な歳出の増加、市税など歳入の減少が懸念される。
- 令和4年度以降は、アフターコロナを見据え、子育て支援を含むさらなる地方創生、デジタル社会、グリーン社会に向けた新たな行政需要に伴う歳出増が見込まれる。
- 令和3年度当初予算における感染症対策や補正予算の財源として財政調整基金から繰り入れたことなどから、基金残高は令和3年度6号補正後において7億5,899万円(前年度末残高比▲17億9,359万6千円)となりましたが、国の臨時交付金や繰越金等により財源更正を行い、基金に積み戻していく予定です。